

# 第1回笛吹市中学校部活動地域移行検討委員会

## 議事報告

開催日時：令和6年1月11日（木）午後7時 開会

開催場所：笛吹市役所市民窓口館 3階 302・303会議室

出席者：笠野委員、猪股委員、清水委員、石井委員、古屋委員、村松委員、金子委員、  
風間委員、渡辺委員、須田委員、高野委員、太田委員（教育部長）、  
荻野アドバイザー、田鹿アドバイザー、望月教育長、

事務局：久保田学校教育課長、学務担当 日原指導主事、  
荻原生涯学習課長、スポーツ推進担当 降矢課長補佐、海野、  
生涯学習担当 生原、海野、角田、

欠席者：なし

傍聴人：なし

### 【進行：生涯学習課長】

1 開会

2 委嘱状・任命書交付

3 委員紹介

4 職員紹介

5 委員長及び副委員長選出

委員長：笠野 英弘氏、副委員長：猪股 真弥氏

6 委員長あいさつ

7 教育長あいさつ

## 8 議事

### (1) 検討委員会のスケジュールについて（資料1）

#### 【質問意見等】

（風間委員）

委員会の日程が令和6年6月の第5回までの予定で、委員の任期が令和7年3月31日となっているが、第5回以降も委員会が開催されるのか。

（事務局）

委員会の進捗状況によっては、回数が増えることや日程が変更されることもある。

### (2) 中学校部活動の地域移行について（資料2-1、2-2、2-3）

#### 【質問意見等】

（風間委員）

スポーツ少年団に具体的な説明がない。スポーツ少年団内の会議等で協議や情報共有できていない。

国のガイドラインの3年という期間は、3年の間に地域移行を行うという縛りがあるという理解で良いのか。

（荻野アドバイザー）

当初、国は3年間を改革集中期間と言っていたが、今は推進期間となり少しトーンダウンしたため実践に繋がっていない。3年の縛りがあるというわけではなく、できるだけ推進しようという期間。

（風間委員）

3年間に縛られて、地域スポーツの中心になっているスポーツ少年団の指導者や、スポーツ団体に情報が理解されてないまま、会議だけが進んでいってしまうと、結局はこれらの団体などに受け皿となってもらえないことや強引に他の団体に押しつけてしまうことになりかねないのではないかと心配している。

来年の3月まで我々は任期がある中で、どこまでやっていくのか明確にした方がいい。

（笠野委員長）

ゴールを明確にすることが非常に重要だと思う。この検討委員会のゴールは、今後、協議会を作った際に笛吹市としてどういう方向性で進めたらいいのかという指針を出すこと。

協議会が設置されたときに、注意すべきことがわかるものを作っていくのがこの委員会と理解しているがよろしいか。

(事務局)

検討委員会では、地域移行に関する市の目指すべき方向性・課題に対して、どのような対応が考えられ、どう対応するのが望ましいのかというようなことを出していたきたい。

強引に進める考えはないが、笛吹市内でも中学生の数は減少し、今後も減少していく見込みになっている。国が示している期間の中で、地域の実情に応じた方法でも一つでも二つでも、実現できればと考える。

情報が各団体に伝わっていないという意見もあったので、例えば地域移行に関する勉強会などを必要に応じて開催し、学校、PTA、スポーツ少年団、スポーツ協会、文化協会等の理解を深めていくことも、並行して必要だと考える。

(笠野委員長)

周知に関しては、まだ生徒や保護者で地域移行について全然知らない方がいる状況なので、これからの課題。

(風間委員)

これから中学校へ行って部活動をやろうと思っている子どもたちが、どのように部活動がなっていくのかをまるで知らないということは、そもそも主人公をないがしろにしている状況なんじゃないかと思う。13日にスポーツ少年団活性化研修会を県で初めて開催するようだが、関わる色々な方々へ周知していかないと、この議論は協議会になったとしても、子どもたちを置き去りにしてしまうことになりかねない。

(村松委員)

笛吹市の実情に合わせたものにしていくことが一番重要。県でこう決まったから、それをやるということじゃなくて、子どもたちや保護者の意見はどうなのか、また、指導者の意見もちろん大事。

市内の方はこんなことを望んでいるというようなアンケート結果などを踏まえ、委員の皆さんどのように考えますかと、決めていくのがいいのではないかと思う。

(3) 笛吹市の現状について (資料3-1、3-2、3-3、3-4、3-5、3-6、4、5)

【質問意見等】

質問意見等なし

#### (4) 意見交換

##### 【質問意見等】

(金子委員)

周知が第一段階。

できる努力を一つ一つやっていくしかない。第一段階の目標を立てる。

地域移行はスポーツだけと考えていた。文化部については、どちらかというところ、第二段階、第三段階で進めていくものかなと思う。

指導者については、県を中心に競技団体に浸透していく機会を作っていただきたい。

文化協会は高齢化が進行し、団体として存続できるかどうかという状態。地域に投げられても指導者を探すというのは難しい。

(荻野アドバイザー)

周知について、今回、アドバイザーの田鹿先生が担当として、公立小学校の児童（5年生及び6年生）とその保護者、公立中学校の生徒（1年生）とその保護者、公立小学校・中学校の教職員を対象にした地域移行に係るアンケートの第2弾を出した。部活動の地域移行の説明を付けて、アンケートを回答する前に子どもたちに読んでもらっている。1月22日に県内の学校長と体育主任を対象に説明会を開催する予定で内容を検討している。

周知も、悲観的な課題も含めて何かやろうと進みだしたときに、一つ一つうまくクリアして、もしクリアできなかつたら、後ろに下がってやり直す「トライアンドエラー」でやっていくしかこの改革はない。

(笠野委員長)

学術界でも最初はかなり批判的に地域移行について捉えられていた。

好事例のクラブが紹介され、うまくいく方法が周知されてきている。実際に、スポーツの運動部を地域移行したら、文化部と運動部が一緒になって総合型みたいな形で文化部と運動部が一緒になったクラブができたという事例もある。

色々な好事例が紹介されて、それがいかに周知されていくかというところが、キーと考えている。

(猪股副委員長)

常設の部活動と、学校では活動していない部活動がある。

例えば水泳部は、学校での活動はなく民間のスイミングクラブ等で活動している。大会に出たいが顧問がつかなければ出場できないため、普段は別の部活の顧問の先生が就かなければならない。そういった負担感がある。

(清水委員)

春日居中は生徒が非常に少なく、部活動の種目も限られている。

小学校の時はスポーツ少年団で他の学区等へ参加して活動できていたが、中学校でそのスポーツを続けたいと思っても、本校にその部活がなく続けられないということがある。

吹奏楽部の人数も少なく非常に困っている。地域移行は、まずは土日の活動になるが、例えば大会の出場は学校単位となるのかとか、合同で練習しているところがそのまま認められて大会に出場できるのか、非常に重要なこと。

また、地域移行について、事実と違う形で保護者や生徒に周知されると、怖いと思ったが、この検討委員会が周知の方向性も決めていくと認識した。

(石井委員)

学校から部活動がなくなると思っている方もいて、クラブチームで頑張ろうという話も聞く。検討委員会で、うまく周知できると良い。

指導者については、探すだけでなく研修会等を開いて資格を持った方や、指導をできる人を増やしていく方法も考えていく必要がある。

(古屋委員)

スポーツ推進委員は、子どもからお年寄りまでのスポーツを普及していこうという活動をしているので、中学校部活動と関わりは少ないが、誰もがスポーツをやりたいと思うような環境を作っていきたいと思っている。協力できることはしていきたい。

(村松委員)

スポーツ指導者協議会というのがあって指導者が登録されている。そこを使っているのはどうか。

(風間委員)

サッカーとバスケットは、スポーツ協会の指導者協議会に入っていない。

市町村の考えもあるけれど、やはり競技団体の流れもあるので、そこを説明したり結びつけたりしないといけない。

サッカーは少年が4種で、中学校は3種、それぞれカテゴリーがあるが、地域移行の話はない。クラブチームもあるので整理していく必要がある。

(渡辺委員)

我々は総合型地域スポーツクラブで、15年ぐらい前に浅川中学校を大会前にスポット的に指導したことはあるが、今の私どものクラブの実情を考えると指導者までは確

保できない。できる範囲でコーディネートや橋渡しのことが私達の任務と思う。地域のつながりの中で、人材を確保していければと思う。

(須田委員)

市の現状として、子どもの数の減少、各学校の部活動数、アンケート結果を説明いただいたが、この結果からどこに問題があって、地域移行が必要なのが見えてこない。もう少し分析していただくと次回の議論も深まると思う。

(高野委員)

PTAという立場で、学校の方から地域移行の話は聞いていた。

勘違いをされて、部活動がなくなってしまうと思っている家庭も多い。まずは周知徹底が必要。

(笠野委員長)

スポーツ少年団や日本スポーツ協会でもホームページにかなり情報が出ている。特に指導者の資格などは、参考にするとよいと思う。

かなり競技によって異なる状況。競技全てひとくくりに考えるのは難しい。競技ごとに対応していく必要があると考える。

最後に、今までは先生方が生徒のことをまず第1に考えて、生徒が喜ぶならと身を粉にして頑張ってきた。それでは先生方が疲弊してしまうので、指導者や保護者など地域の人たちが支えあいながら、選手を中心に関わる全ての人を楽しめるような状況を継続して作っていくことが大事。

## 9 その他

- (1) 第2回検討委員会 日程は事務局から後日連絡
- (2) 笛吹市中学校部活動地域移行検討委員会設置要綱第2条2号にある「地域部活動」の表現について検討

## 10 閉会

午後9時15分 閉会